

第6回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

議 事 要 旨

■日 時：令和6年3月15日（月） 14：00～16：00

■場 所：Web 会議形式（Zoom）

■議事要旨

1. これまでの経緯について

- (1) アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG 議事要旨の確認【資料1】
- ・アクションプラン策定までの経緯と概要、昨年度実施の前回協議会及び今年度実施のWGの議事要旨について確認を行った。

2. 荒川流域エリア・アクションプランの推進について

(1) 令和5年度 協議会活動結果のご報告【資料2】

- ・アクションプランに関する取り組み結果と次年度計画の説明を行った。

(2) 令和4年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

- ・北本市より環境保全の取り組みについて情報提供いただいた。
- ・事務局より関東エコロジカル・ネットワーク10周年の取り組み事例を紹介した。

(3) 今後の取り組みについて

- ・各委員よりご意見や活動事例を紹介いただいた。
- ・アクションプラン見直しについて意見交換を行った。

■配布資料

- ・議事次第／出席者名簿／規約・委員名簿
- ・資料1 これまでの経緯（前回議事概要）
- ・資料2 荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和5年度結果・令和6年度計画案）
資料2（別冊 詳細版）令和5年度 取り組み結果・令和6年度 取り組み計画案（WG 資料）
- ・参考資料 関東エコロジカル・ネットワーク10周年にあたって
- ・広報資料集（ニュースレターなど）

■出席者

構成	氏名	団体名等	出欠
学識経験者	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授	出
	高木 嘉彦	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	出
	日橋 一昭	那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー	欠
	長谷川 雅美	東邦大学 名誉教授	出
関係自治体の長	並木 正年	鴻巣市長	出
	小野 克典 (矢代 雅之)	桶川市長	代出
	三宮 幸雄 (赤塚 浩二)	北本市長	代出
	飯島 和夫	川島町長	欠
	宮崎 善雄	吉見町長	出
関係行政機関	星 友治 (山瀬 よしの)	埼玉県 環境部 みどり自然課長	代出
	吉田 有紀彦 (川鍋 将司)	埼玉県 農林部 農村整備課長	代出
	田島 清志 (杉山 学)	埼玉県 県土整備部 河川環境課長	代出
	八戸 昭一	埼玉県 環境部 環境科学国際センター(生物多様性センター) 研究企画室長(副所長)	出
	斎藤 充則	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課長	出
	村田 啓之	国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所長	出
オブザーバー	—	行田市 環境課	欠
	—	農林水産省 関東農政局 農村振興部 農村環境課	欠
	一宮 勢子	環境省 関東地方環境事務所 自然環境調整専門官	出

1. これまでの経緯について

(1) アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG 議事要旨の確認

◆ 事務局

【資料1】これまでの経緯（前回議事概要）について説明

→意見なし。

2. 荒川流域エリア・アクションプランの推進について

(1) 令和5年度 協議会活動結果の報告

◆ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和5年度結果・令和6年度計画案）

について説明

→意見なし。

(2) 令和5年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

◆ 北本市 環境課

【画面共有資料】北本市における環境保全の取り組みについて説明（高尾宮岡の景観地の保全、高尾宮岡ふるさとのみどりのトラスト基金、高尾宮岡の景観地内での里山保存・環境学習の取組み、きたもと森林セラピー等）

◆ 事務局

【画面共有資料】関東エコロジカル・ネットワーク10周年企画について説明（記念シンポジウム、連携イベント等）

○ 長谷川委員

コウノトリは関東平野の氾濫原が主たる生息域であるため、流域における治水のためのインフラ整備と生息環境の整備を、いかに合体化させていくかが、これまでの大きなテーマとなっていた。渡良瀬湧水地エリアと野田市エリアにおいて取り組みが実を結び始め、コウノトリを飼育して放鳥する拠点である野田市で、繁殖の兆候が出てきている。荒川流域でも治水のためのインフラ整備が進んでいるため、生息環境の改善についても期待が持てる。

(3) 今後の取り組みについて

○ 鴻巣市長

鴻巣市の一大イベント、「鴻巣びっくりひな祭り 2024」が盛況のうちに3月9日に閉幕したところである。ひな祭りが一段落した後は、雛人形と並んで鴻巣市を象徴する花の季節となり、市民の皆さんとの協働による花の一大イベント「第14回こうのす花祭り」をはじめ、桜祭りやチューリップ祭りなど、「花のまち こうのす」を広くPR

する、様々な事業を展開している。このような中、今年度、鴻巣市のコウノトリ関連では、未来につながる出来事がたくさんあった。

1つ目は、本市が内閣府による「SDGs 未来都市」に選定されたことである。これまでコウノトリをシンボルとした自然豊かな環境づくりを推進してきたが、環境面だけではなく、経済面、社会面においても、コウノトリを活かした施策を展開しながら、「人にも生きものにもやさしいコウノトリの里こうのす」の実現を目指すといった提案により、SDGs 未来都市に選定された。今後は鴻巣市 SDGs 未来都市計画を基本として、コウノトリをシンボルとした SDGs への取り組みを推進する。

2つ目は、本市が飼育しているコウノトリの産卵である。令和3年10月にコウノトリを受け入れてから、初めて雌の「ハナ」が卵を三つ産卵した。ヒナが孵ることは叶わなかったが、放鳥を目指す本市としても未来につながる出来事である。

また、7月には市内の川里地域に野生のコウノトリが飛来した。たくさんの生き物が生息する自然豊かな街として一歩前進したと考えている。

8月には、コウノトリ野生復帰センター「天空の里」の来館者が5万人に達成するなど、施設の認知度の高まりも感じている。これも埼玉県こども動物自然公園の高木副園長を始め、埼玉県公園緑地協会委員の皆様のご協力の賜物だと、感謝を申し上げる。

3つ目は、天空の里を会場として、開館以来、毎年定期的に行ってきた「こうのとりのマルシェ」である。こうのとりのマルシェには毎回多くの方にご来場いただき、事業開始から今年で三年目となった。コウノトリの認知度向上とともに、地域ブランドの向上及び地域活性化に繋がってきているものとする。今年度も出展いただいた、荒川流域エコネット推進協議会、また、吉見町の関係者の皆様に改めて御礼を申し上げる。

その他、コウノトリの採餌環境調査において、今年度は市内の市民団体のほか、地元の高中生と連携し、生き物調査体験会を実施することができた。今は、市民協働による自然環境づくりの輪が広がってきており、来年度も連携を深めたいと考えている。また、今年度は吉見町と推進協議会による合同生き物調査が実施されていたが、来年度はぜひ鴻巣市でも実施していただきたい。

鴻巣市におけるコウノトリの里づくりは、コウノトリの認知度向上はもとより、コウノトリに関わる人々の連携も着実に深まってきている。今後もより一層の進展を目指し、事業展開を進めるため、引き続き皆様のご協力とご指導をお願いしたい。

○ 吉見町長

吉見町では「第二次吉見町環境基本計画」に掲げる、「いま できることから始めよう」を实践すべく、子供たちへの啓発機会として、よしみ環境フェアやパネル展の開催、さらには小学校への環境出前講座を実施しているところである。先ほどの資料説明の中にもあったが、本協議会にも出前講座の協力をいただいたことに厚くお礼を申し上げる。

また、共催事業として、八丁湖周辺を会場としたエコネット生き物調査体験会を開催し、これをきっかけとして、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社「森に学ぼう」プロジェクトの開催にも発展できたことは、継続的な事業展開、また啓発機会の確保の意味でも非常に有意義な事業であった。

来年度も吉見町を会場に生き物調査体験会を予定していると伺っている。また、第2回よしみ環境フェアや、清掃活動も開催するため、引き続きご参加・ご協力、ご指導いただきながら魅力的な地域づくりの実現に向けて事業を進めたいと考えている。

先ほどプラスチック問題の話があったが、清掃プロジェクト「国際海岸クリーンアップ」をコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と連携して令和5年度に開催した。埼玉県に海はないが、海にあるプラスチックごみは、田畑あるいは河川を伝って海に流れ込むことから、陸地でもできることから始めよう、ということでコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と取り組んだことも紹介する。

○ 桶川市 環境対策推進課

協議会で推進している荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの活動は、自然保護の面だけに留まらず、地域振興や経済活性化などにも効果のある取り組みと考えている。本市としても、アクションプランを推進するために、関係機関の皆様と連携を図りながら取り組んでいきたいと考えている。

桶川市の荒川周辺地域においては、サイクリングロードなどで市民の皆様にも自然の散策を楽しんでいただいている。また、復原整備をした桶川飛行学校平和記念館では、令和2年の開館以来、多くの方々に来館をしていただき、賑わい創出をしているところである。さらに上尾道路沿いには「道の駅」を整備しており、令和7年3月にオープン予定となっている。

環境政策に関しては、現在、「桶川市環境基本計画」の策定業務を進めており、令和6年度中に策定し、令和7年度から新たな計画に基づく環境対策を進めていく予定である。また、緑に関するところでは、令和6年度に「桶川市緑のまちづくり基本計画」を策定する予定であり、こちらについても、令和7年度から計画に基づく緑化対策を進めていく予定である。

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会の活動を通して、本市としても限られた自然の保全や地域の賑わいづくりに取り組んでいきたいと考えている。

○ 北本市 環境課

北本市の環境保全の取り組みとして、高尾宮岡の景観地の保全や、緑を活かす「北本森林セラピー」を通じた里山保全、環境学習を進めている。

令和4年1月には「北本市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指して様々な取り組みを進めている。令和5年度においては、「北本市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、更なるゼロカーボンシティの取り組みを進めているところである。

今年度は、職員に環境意識を高めてもらうために地球温暖化、また生物多様性に関する研修会を実施し、地球温暖化の影響と対策に関する研修会も実施した。

また、関係機関の連携としては、鴻巣市環境課、吉見町環境課と連携し、ゼロカーボンシティ推進に関するチラシを作成した。吉見町の環境フェアや鴻巣市や北本市の産業祭りにブースを設置し、地球温暖化防止のパネル展を実施して、多くの皆さんの関心を寄せていただいたところである。

また、推進協議会においても、関係機関が連携してチラシの配布やパネル展示、また、連携事業を進めていければと考えている。そのためには、関係自治体から地域の特色を生かした取り組みや、地域性の話、また、埼玉県各課や、埼玉県環境科学国際センターの専門的な分野からのご助言等をいただきたいと考えている。私たち自治体では知りえないような情報交換ができる場として、このような機会を活かしていきたい。

また、これまでの説明にあったアクションプランの実績や計画について、北本市として取り組みきれてないものが多いと感じている。実際、地域の皆様が取り組まれているようなものも紹介しきれていないと思われるため、それらも含め、取り組みの深掘りを進めていきながら、次の機会には一つでも多くの事例を披露できればと考えている。

○ 埼玉県 環境部 みどり自然課

平成30年に現行の「生物多様性保全県戦略」を策定したが、昨年3月に生物多様性国家戦略が新たに策定されたことを受け、ネイチャーポジティブといった新しい概念を取り入れた県戦略の改定に向けた検討を進め、今月中に策定公表を予定している。

本協議会並びにアクションプランの取り組みの中で、県の戦略推進にご協力いただきたい。また、市町村の地域戦略の策定の参考にもしていただきたいと考えている。

○ 埼玉県 農林部 農村整備課

当課では農村地域や農地の環境保全活動の実施事業を行っており、その中の一つに、水辺周辺活用事業というものがある。こちらは県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するために、「川の再生」に取り組んでいるところである。この事業では、農業生産のために維持されてきた水辺の魅力が実感できるように、水辺空間の整備をしている。具体的には、農業用水における環境配慮護岸工事や遊歩道の整備等を実施している。

当協議会が活動を行う荒川流域以外の部分もあるが、協議会にとって参考になる部分はあるかと思うため、今後も情報提供をしていきたい。

○ 埼玉県 県土整備部 河川環境課

生物の生息環境保全に関するプランに関する次年度計画のプラン②にあるゴミ問題への対応は、埼玉県の管理する河川でも取り組んでいるところである。県土整備部は河川や道路等の建設に関わるハード事業を行っているが、ソフト対策としてゴミ問題も注視している。

埼玉県では市町村と協力し、河川愛護意識の一層の高揚と良好な河川環境の維持、保全に資することを目的として、県の管理する河川におけるボランティアの美化活動を支援している。現在、約490団体の登録があり、地域住民、河川愛護団体自治会、町内会、学校や地元企業の方が美化活動に取り組んでいる。現在、この取り組みに協力してくださる方をさらに増やすためのPRなどを行っているところである。ゴミ問題の啓発活動についても、地域の清掃活動やイベント等の際に行っていければと考えている。

○ 埼玉県 環境部 環境科学国際センター（生物多様性センター）

プラン②のゴミの問題・外来種啓発教材について、非常に良いと思った。生物多様性やゴミ問題の普及について私どもも非常に悩んでいるため、こういったものがポータルサイトからダウンロードして使用できる形にさせていただいているというのは非常にありがたく、今後活用したいと考えている。

また、工夫によっては、更に踏み込んだこともできるかと思う。例えば、アカミミガメとイシガメ、サギとコウノトリ等、どこに着目して同定するか、子ども達が遊びながら学べる仕掛けがあると良いか考える。もしかしたら今の子ども達は、スマホで遊べるような仕組みが合っているかもしれないが、非常に良い取り組みであると考えている。

○ 関東地方整備局 河川環境課

平成 25 年から関東エコネットの取り組みが始まってちょうど 10 年ということで、昨年 11 月にシンポジウムを開催した。このシンポジウムに合わせて、5 分程度の動画を作成した。その動画の最後に、平成 25 年のエコネットの取り組み開始当初のコウノトリの確認状況、それから 10 年経過後の確認状況を見ることができる。10 年間で飛躍的にコウノトリの飛来が増加した。これも皆様の取り組み成果を確認する一つの方法かと思うため、是非とも共有したかった。是非サイトにアクセスして視聴いただきたいと考えている。

今朝、福井県のコウノトリの産卵についてのニュースが流れており、今年もそういう時期になったのだと実感した。渡良瀬遊水地では 4 年連続でヒナが孵って巣立ちをしている状況が確認されている。また、大きなニュースにはならなかったが、利根川の下流部でも同じようにヒナが孵って巣立ったことが確認されたことで、地域では機運が高まっている。

私たちが事務局を務めている関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会は、今日この場にお集まりいただいている荒川流域エリア協議会をはじめ、利根運河周辺エリア、利根川下流エリア、渡良瀬遊水地エリア、それぞれで活動している皆さんと連携していきたいと考えている。

● 浅枝座長

エコネットは関東が最初に始めたが、今はどのぐらいの地域で行われているのか。

○ 関東地方整備局 河川環境課

全国では、11 の地域でエコネットの協議会が設立されている。それぞれの地域で指標種が異なり、関東はコウノトリ・トキであるが、他の地域ではツルなど、さまざまな指標種がある。

● 浅枝会長

関東エコネットはある意味旗振り役であり、エコネットをより効果的な形にしてい

く役割があると考えている。

○ 荒川上流河川事務所 村田事務所長

北本市には北本自然観察公園があり、荒川の自然環境が学べる環境学習の拠点となっているが、周辺にも高尾、宮岡という貴重な景観地があるということが分かり、大変参考になった。また、そういった環境が地域の取り組みによって復元されているということもエコネットを進めていく上で非常に参考になると感じた。

アクションプランについては、策定されて今年で3年目となり、関係自治体などのご協力をいただきながら、目標達成に向けて取り組みが進められているところである。一方で取り組みを進めていく中で、見えてきた課題もあるのではないかと考える。2025年度令和7年度が中間取りまとめとなっているが、それに向けて課題を洗い出してどう計画を見直していくのかを、関係者の皆様と議論させていただきたいと考えている。

○ 埼玉県こども動物自然公園

エコネットは非常に多くの良い取り組みを行っているが、一般の方からの認知度がなかなか上がらないことが、もどかしく感じる。そういった部分で、私どもの動物園等、不特定多数の方々が非常に多く来訪する場所で情報発信していくのも一つの手であると考えている。

コウノトリ野生復帰センター「天空の里」においては、コウノトリの飼育放鳥がメインの仕事ということになってはいるが、エコネットの取り組みを、地元の人たちにも地道に普及する施設になっていくことも必要であると考えているため、私どもの動物園を含め、うまく活用できるようなことを考えていければと、常々皆様のご意見を聞きながら考えている。

○ 長谷川委員

エコネットという枠の中で、各自治体が主体的に取り組まれることは大変良いことであると受け止めている。関東エコネット全体で、流域治水と、エコネットの擦り合わせをしていくことが大きなテーマになっている。

実際、流域治水を進めていく中で、コウノトリが広域で流域の生態系の状況を把握する上での大きな良い指標になることは、この数年間の放鳥と定着の取り組みの成果という形で実感している。そのため、鴻巣市にコウノトリの放鳥拠点があることは、その機運を上げるという意味ではとても良いことだと思っている。

同時に、流域の構造を考えると、私たちが住んでいる具体的な河川の流域で、どのようなエコネットの整備によって魚類や両生類等が豊かになっているか実感を得ることが大事なことだと考えている。

○ 浅枝座長

関東エコネット開始から10年が経過したが、当初想定していた通り、様々な地域でエコネットの取り組みが開始された。

日本中から自然を求めて来訪されるような特色を持った地域もあるが、そういった観点では、関東の競争力は弱いと感じている。ただ、発信力という観点では、関東は非常に強い。関東エコネット、特に荒川流域は、その中でも一番都会、ある意味発信力も大きいいため、そういった環境を活かす方法についての検討を事務局にお願いしている。

(3) アクションプランの見直しについて

◆ 事務局

【画面共有資料】2025年は取り組み中間評価年にあたり、必要に応じ、アクションプランの見直しを行う予定であることについて説明

○ 浅枝座長

資料説明の中に、川越のインバウンド需要が高まっていることが紹介された。インバウンドの来訪を促すためには、川越の火の見櫓のようなスポットがあることが重要と考えがちであるが、重要なのは、海外から宿泊施設や観光ツアーが予約できるインターネットサイトが存在することである。ツアーに参加してもらうことで、日本の魅力を伝えることができる。インバウンドによる観光について研究されている方もいるため、そういった情報をうまく取り入れると、流域内のインバウンド需要が増えるのではないかと。

また、荒川流域内には留学生が多く、コミュニティも作られている。そのコミュニティもうまく取り込むと、取り組みの輪を広げることができるのではないかと。

事務局の方では何かそういったところを調べているか。

●事務局

事例として調べることができたのは、説明資料内の情報のみとなる。

○ 浅枝座長

インバウンド対策以外にも、エコネットの活用を考えることができる。例えば、精神的な障害がある方に自然に触れていただくと、非常にいい効果を発揮することに繋がる。そういった波及効果も考えられるのではないかと。

●事務局

座長よりご意見いただいた今までの取り組みというのは、推進協議会規約の目的に記載されている、水辺環境の整備や再生方法を推進するという部分に軸足を置いたものである。ただ、この規約の中には続きがあり、賑わいのある地域振興・経済活性化方策を取り組むことによって、広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成による魅力的な地域づくりを実現という形になっている。その部分について、インバウンドによる地域活性化についてご提案いただいたと事務局では理解しているところである。ただ、皆様方が取り組まれている、自然再生や保全の方針等と、どの

ように結びつくといいか。親和性、相関性などといった視点でもご意見いただきたいと考えている。

○ 長谷川委員

エコネットのように広域で進める活動は、トップダウン的な計画に基づくものから逃れられない印象がある。これからの環境保全は、自分たちの住んでるところを良くすることと、良くしたところを互いに訪問し合う、交流形が大事なのではないかと考えている。

もちろん、青年時代には各地に赴き、自国と異なる自然や社会を知ることがあって当然良いが、子育てをする場所は自然豊かな場所であってほしい。そのように考えると、どこか良いところに行くのではなく、環境を良くしていく過程で互いが訪問して交流していくことが理想ではないかと考えている。

そういった意味では、エコネットと同時に良くしていった場所、自然をぜひ見てくださいと披露したい。そして、互いを褒め合い、高め合っていくような取り組みの連携が行われることが大事なのではないか。関東エコネットの自治体フォーラムではその流れを感じている。

コウノトリが定着し、繁殖したコウノトリがヒナを育てて巣立つ際、足環をつける必要がある。その足環をつけることによって、自治体間で協力し合う体制ができる効果があるのではないか。例えば野田市のコウノトリが渡良瀬遊水地、あるいは神栖市、あるいは荒川流域に飛来することで交流が生まれることがエコネットの良い部分ではないか。

先ほど浅枝先生より留学生の話題が出たが、埼玉県自然を見に来てくれた埼玉大学の留学生達の故郷へ行ってみると、自然と人間のコミュニティが育っていくこともあるのではないか。インバウンドについては、お客さんがたくさん来れば良いと思いがちであるが、自然を大切にするという取り組みで、お互い協力し合うようなことができれば良いと、理想論ではあるが感じた次第である。

● 事務局

環境学習・観察会の推進の取り組みの中で、各市町の指標種となるイラストを作成している。このイラストを活用した周遊スタンプラリーを実施し、これをきっかけに、互いの市町や、上下流の地域に訪問し合うなどの交流ができると良いと考えている。

○ 浅枝座長

上下流の交流について昔から言われていたが、特に荒川を対象にする場合には、重要な意識であり、荒川のエコネットの範囲内において、できるものではないかと考える。

● 事務局

指摘の通り、荒川上下流で見える風景や川の様子、環境が異なる。参画いただいて

いる荒川流域のエコネット推進協議会のメンバーの中でも、各々特徴がある。まずは、その異なる部分を互いに知るということを、本日皆様からいただいたご意見も踏まえ、次のアクションプランの新たなアイディアの中に取り入れたいと考えている。

○ 浅枝座長

次期アクションプラン策定までのスケジュールはどのようになっているのか。

● 事務局

本日の資料に示す通り、来年度の協議期間を経て、令和7年度に改定を考えている。

○ 浅枝座長

来年度はインバウンドや、荒川の千年単位前の歴史等についても研究や勉強をすると良いのではないかと。

広い視野で充実したプランを作成することが必要であると考えため、来年度は次期アクションプランに向けた勉強の時間に充ててはどうか。

● 事務局

今回いただいたアイディア・ご意見を網羅した事務局からの提案について、次回会議までに全てご提示するのは難しいが、出来る限りの検討を行ったうえでお示しいと考えているため、忌憚のないご意見やアドバイスを賜りたい。

閉会の挨拶

○ 荒川上流河川事務所 村田事務所長

取り組み中間評価年に向けたアクションプランの見直しについて、本日いただいたご意見を踏まえた検討を事務局で進めたうえ、会議等でご相談させていただく。

引き続きエコネット形成による魅力ある地域づくりのため、連携して持続して取り組みを進めていくことが重要だと改めて認識した。

以 上